

## [2] 全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：5題	解答数：38問	
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ	○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	
<p>総評</p> <p>形式的には大問数、解答数、資料・図表を用いた出題数と昨年と変化なし。引き続き、経済分野からの出題が多く、23/38が経済分野からの出題となった。また、国際政経分野および、外国との関係・比較を問う設問が3割ほど見られ、グローバルな視点が要求されている。第1問は思考力を試される設問が多く、出題の意図を読み取るのに時間がかかったであろう。一方、第2・3問は基本的な問題も多く、正解率は高かったと思われる。第4・5問は2010年経済財政白書のテーマの一つでもある、政府の経済運営を中心に、経済全般にわたる設問が見られた。全体的には、高度な知識を要求する設問は少なかった。また、基本的な知識を活用することで解答につながる設問が多く、選択肢の文章も判断に困るような文章が少なかったため、昨年と比べ若干易化したと思われる。ただし、第1問に時間をとられ、易しめの問題に手をかけられなかったことで、点数を落とすことも考えられる。</p>			

## [3] 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	国際経済を主要なテーマとし、政治・経済について幅広く出題。	24点	問1では消費者庁、農業への株式会社の参入、トレーサビリティなど比較的最近の出来事が見られる、現代社会06・07年にも同様の語句が出ており、触れていた生徒は有利であっただろう。問3は2年連続需給曲線の問題。切り口が特異で戸惑う可能性があるが、労働供給の移動に着目できれば解答は容易。問7は比較生産費説を問う問題。99・01年にも出題があるが、誘導があるため、難易度は高くない。問10は04年、08年に続きゲームの理論。同様の問題に接していないと、時間がかかったであろう。
第2問	ねじれ国会をテーマに国会、選挙について出題	19点	問2・4・6は基本かつ典型的出題。問5は「ねじれ国会」を問う設問であるが、基本的な定義の理解のみで解ける。問7は比較的新しい法律である青少年ネット規制法が出題されている。
第3問	国際政治と地方自治の関わり	19点	問2は新エネルギーがイメージできれば解答は可能。05年現代社会で出題あり。問3・4・5は国際政治分野であるが、基本かつ典型的出題。「核なき世界」演説等で注目される核問題が問4で出題。問6では観光庁、EPAなど最近の話題が出題されている。
第4問	政府と市場の関係	19点	問2では経済学者の著作からの抜粋であるが、ほぼ同様の問題が09年に出題されている。主要なキーワードが選択肢に含まれており、解答は導きやすい。問3は06年に出題のあったローレンツ曲線の見方が分かるかがポイント。問7はGDPとGNPの違いに着目できれば、計算は不要である。
第5問	社会保障と政府の働き	19点	問1のサブプライム問題、問3の派遣労働者数などが最近の話題。問6の図表読み取りは、リード文中に「政府は2000年代に公共事業の削減…」とあり、気がついた生徒は容易に解答が出せたはずである。